

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	1	地球への負荷が少ない脱炭素なまちづくり
基本方針	1-1	「ゼロカーボンシティふかや」を実現する 深谷市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）
基本施策	1-1-(1)	温室効果ガス排出量の削減
	1-1-(2)	使用エネルギー削減への取組推進
	1-1-(3)	再生可能エネルギー等のクリーンエネルギー導入促進
	1-1-(4)	「ゼロカーボンシティふかや」実現に向けた地域循環共生圏の構築

作成日	令和8年5月8日
担当課	環境課
担当者	岡部 孝司

2. 環境指標

環境指標名	市域から排出される温室効果ガス
指標解説	「市域から排出される温室効果ガス」は、環境への負荷を軽減し、自然環境の保全が行われているか測る指標である。 これまでは埼玉県 市町村温室効果ガス排出量推計報告書における、本市の年間温室効果ガス総排出量を基準としていたが、本計画より環境省の作成する「自治体排出量カルテ」による本市の総排出量を使用する。

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
		国の地球温暖化対策実行計画と同様に、本市においても2030年度46%削減という目標値を基に、各年度の目標値を設定した。	千t-CO2	674.00
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
	R7年度に公表された環境省 自治体排出量カルテにおける本市の総排出量	千t-CO2	885.00	833.00

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	B	目標達成に向けた取組内容	<p>【指標評価】 指標については目標値を超えることはできなかった。</p> <p>【取組内容】 ・住宅用省エネ設備設置費補助事業について、336件に補助金を交付(令和6年度:319件) ・緑のカーテン設置推進のためのゴーヤ苗の無料配付及びコンテストの実施</p>
------	---	--------------	--

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	A	課題・具体的な改善策	<p>・今年度については国や県全体において排出量の総量は減少しているものの、一部の分野が大幅に増加している。特に農林水産業部門については国及び県の排出量が著しく増加しており、この結果が深谷市分の総量の増加に大きく影響を与えている。</p> <p>・他方、家庭部門については順調に減少していることから、引き続き住宅用省エネ設備補助制度を継続・充実させることを中心に、排出量の削減を目指していく。</p>
--------	---	------------	--

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	1	地球への負荷が少ない脱炭素なまちづくり
基本方針	1-1	「ゼロカーボンシティふかや」を実現する 深谷市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）
基本施策	1-1-(1)	温室効果ガス排出量の削減
	1-1-(2)	使用エネルギー削減への取組推進
	1-1-(3)	再生可能エネルギー等のクリーンエネルギー導入促進
	1-1-(4)	「ゼロカーボンシティふかや」実現に向けた地域循環共生圏の構築

作成日	令和8年5月8日
担当課	環境課
担当者	岡部 孝司

2. 環境指標

環境指標名	太陽光発電システム導入容量
指標解説	「太陽光発電システム導入容量」は固定価格買取制度開始後に認定を受けた、市内の事業者や市民等が設置した全ての太陽光発電システム導入容量であり、エネルギーの利活用を測る指標である。 前回の環境基本計画での2027年までの目標値を現時点で上回っていたため、資源エネルギー庁による第6次エネルギー基本計画に基づく、施策強化等の効果が実現した場合の野心的目標を参考に、新たな目標値を設定した。

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
		国の第6次エネルギー基本計画に基づく、施策強化等の効果が実現した場合の野心的目標を参考に、各年度の目標値を設定した。	kW	130,129
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
	資源エネルギー庁が公表している固定価格買取制度設備導入状況より ※実績値は、公表されている直近の年度末値(2025年3月末 新規認定分)を記載している。	kW	93,948	117,535

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	B	目標達成に向けた取組内容	<p>【指標評価】 指標については初めて目標値を下回った。</p> <p>【取組内容】 ・住宅用省エネ設備設置費補助事業について、太陽光発電システム159件に補助金を交付(令和6年度:165件) ・本事業について広報ふかや及び市ホームページに同制度を掲載</p>
------	---	--------------	---

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	A	課題・具体的な改善策	<p>・太陽光発電設備の新規認定導入容量については引き続き県内でもトップクラスであるが、事業用太陽光発電設備についてはその伸びが著しく鈍化している。これは固定価格買取制度の調達価格の低下によるものと推測される。国の制度変更が指標に大きな影響を与えていることが明白であることから、今後、指標の妥当性について検討する必要がある。</p> <p>・一方、住宅用省エネ設備設置費補助金について令和5年度から補助金総額を増額したことにより、太陽光発電システムの補助件数が3年連続で150件を超え本指標に大きく寄与することができたことから、引き続き住宅用省エネ設備補助制度について継続・充実を図っていく。</p>
--------	---	------------	--

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	1	地球への負荷が少ない脱炭素なまちづくり
基本方針	1-2	深谷市の事務事業から出るCO2の削減 深谷市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）
基本施策	1-2-(1)	公共施設におけるエネルギー使用量削減に向けた取組の実施
	1-2-(2)	省エネルギー設備、新エネルギーの導入推進
	1-2-(3)	公共施設等におけるエネルギー効率改善
	1-2-(4)	公共施設の緑化推進

作成日	令和8年5月8日
担当課	環境課
担当者	岡部 孝司

2. 環境指標

環境指標名	市の事務事業から排出される温室効果ガス
指標解説	今回の見直しに伴い、国が発表する各施設が契約する電力会社ごとの係数を使用し、実際に排出されている数値に近い形の算出方法に変更する。 電力会社ごとの係数が下がることにより、排出量も下がっていくこととなるため、係数の低い電力会社と契約することで、事務事業での温室効果ガス排出量も下がっていく。

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
	国の地球温暖化対策実行計画と同様に、本市においても2030年度46%削減という目標値を基に、各年度の目標値を設定した。	t-CO2	13,328	15,451
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
	エネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づいて経済産業省に毎年度報告する、市の事務事業から排出される温室効果ガスの総排出量	t-CO2	17,573	15,112

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	A	目標達成に向けた取組内容	<p>【指標評価】 前年度に比べ排出量は減少し、目標も達成することができた。各施設における省エネ、節電のほか、省エネ設備への更新が進んだものと考えられる。</p> <p>【取組内容】 ・職員向け省エネ、節電の啓発 ・施設担当課による省エネ設備への更新</p>
------	---	--------------	---

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	B	課題・具体的な改善策	<p>・現段階では順調に推移していても啓発や設備の更新による削減量に限界が見え始めており今後さらなる削減は見込みづらい。さらに今後はエネルギーを多く消費する施設や設備の新設が予定されている。</p> <p>・中期的には事務事業について抜本的な温室効果ガス排出量削減が期待できる取組が予定されていないことから、検討を始めた公共施設へ供給している電力のグリーン化について引き続き検討していく。</p>
--------	---	------------	--

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	1	地球への負荷が少ない脱炭素なまちづくり
基本方針	1-3	気候変動への適応 深谷市気候変動適応計画
基本施策	1-3-(1)	科学的知見の情報収集
	1-3-(2)	対策の緊急性と連携
	1-3-(3)	影響のモニタリング
	1-3-(4)	市民・事業者・滞在者・行政との情報共有と連携

作成日	令和8年5月8日
担当課	環境課
担当者	岡部 孝司

2. 環境指標

環境指標名	緑のカーテンコンテスト応募者数
指標解説	緑のカーテンは温暖化・緑化対策のために重要であり、深谷市でも環境コンテストを通じて、緑のカーテンの普及に取り組んでいく。

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
		令和3年度の応募状況を勘案し、さらなる応募数の増加を目指し、各年度の目標値を設定	件	100
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
	緑のカーテンコンテスト応募実績	件	79	49

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	C	目標達成に向けた取組内容 【指標評価】 令和7年度については目標値は大幅に下回っているものの、昨年度よりは応募実績が増加した。 【取組内容】 ・市民向け、公共施設及び事業者向けゴーヤ苗無料配付 ・一般部門の参加賞見直し
------	---	---

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	A	課題・具体的な改善策 ・天候に左右される事業ではあるが予算等現状維持の中で、一般部門の参加賞を変更した結果、若干増加したことから応募促進に対する改善の効果はあったと判断できる。 ・他方、苗の無料配付については応募が堅調であり、緑のカーテンの普及という目的は苗の配付である程度達成されたという見方もできることから、今後はコンテストのあり方について検討していく。
--------	---	--

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	2	資源を有効に生かす無駄の少ないまちづくり
基本方針	2-1	3Rの推進とごみ排出量の削減
基本施策	2-1-(1)	ごみの3R(発生抑制・再使用・再生利用)推進による循環型社会の実現
	2-1-(2)	分別の促進による処分量の削減

作成日	令和8年5月15日
担当課	環境衛生課
担当者	島田 裕一郎

2. 環境指標

環境指標名	市民1人1日あたりの家庭系ごみの排出量
指標解説	資源物及び使用済小型家電を除く家庭系ごみの市民1人1日あたりの平均排出量であり、ごみの発生が抑制され、再利用が促進されているかを測る指標

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
		深谷市第2次総合計画後期基本計画における目標値と同じ目標値を設定	g/人・日	668
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
	市民1人1日あたりのごみの排出量は、深谷市全体の家庭から出るごみの総量より、資源物及び使用済小型家電のごみの量を除き家庭系ごみを人口と年日数で除したものである。	g/人・日	723	687

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	A	目標達成にむけた取組内容	・広報誌にてごみ減量化の啓発を行った。

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	A	課題・具体的な改善策	持続可能な資源循環型社会の構築には、ごみの減量化やリサイクルを心がけている市民を増やし、ごみ排出量の削減を図ることが大切である。市民のごみ減量への取組みやリサイクルへの取組は浸透しているが、更なる「ごみの減量」と「リサイクルを推進する意識の向上」のため、市民への情報発信を引き続き行うこととする。
--------	---	------------	--

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	2	資源を有効に生かす無駄の少ないまちづくり
基本方針	2-2	適切な廃棄物処理の実施
基本施策	2-2-(1)	廃棄物処理施設の整備
	2-2-(2)	不法投棄などによる未処理廃棄物量の削減

作成日	令和8年5月15日
担当課	環境衛生課
担当者	小暮 孝夫

2. 環境指標

環境指標名	不法投棄の苦情受付件数
指標解説	市民等からの不法投棄の苦情通報を受付した件数を示す指標

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
		過去5年間における不法投棄の苦情通報の最も少なかった件数を下まわることを目指し、目標値を設定した。	件	11
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
	不法投棄相談受付台帳により	件	12	34

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	D	目標達成に向けた取組内容 ・ごみゼロ運動の実施(春と秋の年2回) ・不法投棄禁止等を周知する啓発看板の配布(ごみのポイ捨て禁止看板:16枚配布、不法投棄禁止看板:20枚配布) ・深谷市くらしの環境美化条例の運用(空地・空家の雑草等適正管理の指導通知発送件数:99件、除草等により是正された件数:48件) ・荒川クリーン協議会に参加(河川敷に投棄されたごみの一斉撤去の実施)
------	---	---

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	A	課題・具体的な改善策 不法投棄は、市で収集・処理が困難な家電製品や建築廃材などが投棄されている状況である。不法投棄の行為者が特定できる場合や産業廃棄物の不法投棄など悪質なものについては、警察や県などの関係機関と連携して対応を行なっているが、最終的には行為者の特定に至らないため、市で回収をせざるを得ない状況である。現在、市が対応可能な不法投棄物については、すべて回収している。また啓発看板の市民への配布も実施しており、市民の監視意識の向上につながっている。
--------	---	--

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	3	自然が守られるまちづくり
基本方針	3-1	自然やみどりの環境の保全
基本施策	3-1-(1)	自然緑地の適正管理、公園等の緑地の保全
	3-1-(2)	水辺の環境保全の推進

作成日	令和 8年 5月19日
担当課	公園緑地課
担当者	茂呂 佑典

2. 環境指標

環境指標名	市内の公園面積
指標解説	身近にある自然と親しめ、憩いの場である市内全体の公園面積を示す指標

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
	深谷市緑の基本計画における令和11(2029)年度整備目標値を基に、目標値を設定した。	ha	156.53	155.48
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
	平成28年度末の市内公園面積を基に、令和7年度末までに新規に整備した公園(帰属含む)の面積の合計を記載している。	ha	147.84	148.22

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	B	目標達成に向けた取組内容	深谷市緑の基本計画に基づき関係各課や関係機関と連携をとり、緑地の確保に向け事業を進めている。
------	---	--------------	--

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	A	課題・具体的な改善策	深谷市緑の基本計画に基づき関係各課や関係機関と連携をとり、緑地の確保に向け事業を進めていく。
--------	---	------------	--

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	3	自然が守られるまちづくり
基本方針	3-2	生き物の多様性の保全
基本施策	3-2-(1)	地域の生態系の保全
	3-2-(2)	特定外来生物対策

作成日	令和8年4月15日
担当課	農業振興課
担当者	竹内 祐貴

2. 環境指標

環境指標名	アライグマによる農作物被害面積
指標解説	アライグマの捕獲により農地への被害面積の増加を抑え、在来生物を保護し、優良な農地の保全を図る指標

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
		アライグマの捕獲頭数は増加しているが、農業被害面積の拡大を防ぐことを目指し、目標値を設定した。	a	101
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
	市内3農協と農業共済組合に実績を確認した。	a	222	0

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	A	目標達成に向けた取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市鳥獣害対策協議会において、野生動物侵入防止用電気柵の貸出し、購入経費補助を行った。 ・アライグマ捕獲用箱ワナの貸出しを行い、令和7年度は市内で929頭のアライグマが捕獲された。
------	---	--------------	---

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	A	課題・具体的な改善策	深谷市鳥獣害対策協議会に対し、有害鳥獣から農産物の被害を防止するために実施する対策に係る経費を対象とする補助を行う。その補助金をもって、侵入防止用電気柵の購入経費への補助を実施する。
--------	---	------------	---

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	4	健康で安全に暮らせるまちづくり
基本方針	4-1	安全な生活環境の保全
基本施策	4-1-(1)	湧水・地下水・土壌などの環境の保全
	4-1-(2)	健康を脅かす有害物質等の監視

作成日	令和8年4月16日
担当課	環境課
担当者	関口 真

2. 環境指標

環境指標名	河川水質環境基準(BOD)達成率
指標解説	市内河川水質調査において、河川水質基準を達成した箇所の割合で、公害対策が推進されていることを測る指標

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
		全ての測定地点で河川水質基準の達成を目指し、目標値を設定した。	%	100.0
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
	環境基準達成地点数(3地点)÷環境基準適用地点数(4地点)	%	0.0	75.0

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	C	目標達成に向けた 取組内容	・市内の環境基準適用河川の4つの場所で2ヶ月に一度、BODを含めた水質測定を実施した。
------	---	------------------	---

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	A	課題・具体的な改善策	<p>河川の水質については、水路工事や気象条件等による流入水量の変動から大きな影響を受けることも多いが、汚染原因となるものに関して、県や河川浄化美化団体などとも連携しながら解消に努めていく。</p> <p>野菜加工工場の排水に起因すると思われる河川の水質悪化が確認されているため、引き続き指導権限を持つ県北部環境管理事務所と監視、指導を行っていく。</p>
--------	---	------------	--

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	4	健康で安全に暮らせるまちづくり	作成日	令和8年4月30日
基本方針	4-2	心休まる環境の保全	担当課	環境課
基本施策	4-2-(1)	空気のきれいさ・静けさなどの生活環境の保全	担当者	関口 真

2. 環境指標

環境指標名	公害苦情相談処理率
指標解説	公害苦情の相談に対し、解決に至った割合を示す指標

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
		全案件について解決することを目指し、目標値を設定した。	%	100.0
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
		解決した公害苦情件数÷公害苦情総数 (2÷2)	%	60.0

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	A	目標達成に向けた取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音、振動、悪臭などに関する外部研修への参加 ・公害苦情の関係者を集めた意見交換会の開催 ・定期的なパトロール
------	---	--------------	--

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	A	課題・具体的な改善策	引き続き関係機関や関係部署などと連携を図り、法令に基づき適切及び迅速に対応していく。
--------	---	------------	--

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	5	協働で環境を守るまちづくり	作成日	令和8年5月13日
基本方針	5-1	環境への関心の喚起と環境情報の提供	担当課	学校教育課
基本施策	5-1-(1)	学校や市民への環境学習機会の確保	担当者	長谷川 隼也
	5-1-(2)	環境情報ツールの普及促進		

2. 環境指標

環境指標名	市内小・中学校におけるエコライフDAYの参加実施率
指標解説	埼玉県と県内の各市町村、学校、事業所等が協力・連携して実施するエコライフDAYへの市内小・中学校における参加率であり、簡単なチェックシートを利用し、省エネ・省資源など環境に配慮した生活を1日実践することにより、地球温暖化防止のためのライフスタイルを見直すきっかけづくりを示す指標

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
	毎年度、市内全小・中学校の参加を目指し、目標値を設定した。	%	100.0	100.0
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
	市内小中学校の実施校数/市内小中学校数	%	96.7	96.7

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	B	目標達成に向けた取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内小・中学校にエコライフDAYの参加呼びかけ 児童・生徒へチェックシートをデジタルで配布 長期休業日・週末を利用した家庭での活用 チェックシートに基づいた地球温暖化対策の推進
------	---	--------------	---

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	A	課題・具体的な改善策	<p>学校教育課では公立小中学校の参加を呼びかけており、公立小中学校は全校で実施できた。</p> <p>公立小中学校においても、全学年で実施していない学校もあることから、より多くの生徒が実践できるよう努めていきたい。</p>
--------	---	------------	--

深谷市環境基本計画進行管理表 <令和7(2025)年度>

1. 目指すべき環境のすがたの体系

基本目標	5	協働で環境を守るまちづくり
基本方針	5-2	各主体間の連携強化と環境保全活動の実施
基本施策	5-2-(1)	人づくりやネットワーク構築の支援
	5-2-(2)	環境保全活動の開催、関連団体への支援

作成日	令和8年5月12日
担当課	環境衛生課
担当者	島田 裕一郎

2. 環境指標

環境指標名	集団資源回収量
指標解説	深谷市リサイクル活動推進奨励金交付要綱に定める登録団体における集団資源回収量で有価物の資源化を測る指標

3. 指標値

			計画策定時	計画期間
目標値	年度目標の説明	単位	令和9 (2027)年度	令和7 (2025)年度
	深谷市第2次総合計画後期基本計画における目標値と同じ目標値を設定	t	3,150	3,090
実績値	実績値の算出式(根拠説明)	単位	令和3 (2021)年度	令和7 (2025)年度
	深谷市リサイクル活動推進奨励金要綱に定める登録団体(157団体)のうち令和7年度活動団体(107団体)の1年間の集団資源回収量である。	t	1,809	1,442

4. 指標評価及び目標達成に向けた取り組み内容(具体的に記載)

(目標達成率 A:100%、B:80%以上、C:60%以上、D:50%未満、E:0%)

指標評価	D	目標達成に向けた取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌にて集団資源回収の周知を行い、資源再利用の推進とごみの減量化の啓発を行った。 ・令和4年1月より対象品目に6種(雑がみ・シュレッダーごみ・スチール缶・スプレー缶・ペットボトル・ペットボトルキャップ)を追加した。
------	---	--------------	--

5. 今後の方向性・課題・具体的な改善策 (A:現状維持、B:拡充、C:縮小、D:新規立案)

今後の方向性	A	課題・具体的な改善策	<p>紙資源のリサイクルを徹底するため、「ごみの分け方・出し方」に「雑紙」・「リサイクル」・「地域の集団回収」について掲載する。このほか、市の各イベント、広報及びHP等において、資源再利用のPRを行うことにより、資源の再資源化の推進を図る。</p> <p>令和8年4月1日より、回収量の向上を図るため、増量実績加算金、新規・再開加算金の制度を創設。</p>
--------	---	------------	--